１　腐敗病【病原体：*Fusarium*属菌、*Pythium*属菌（糸状菌）】

A 発生生態

１　葉の周縁部が淡褐色に変色して萎れ、後に葉全体が枯れて倒伏する。り病した地下茎は褐変する。
２　フザリウム属菌による褐色腐敗、ピシウム属菌による黒紫色腐敗があり、一般にフザリウム属菌によるものが多い。
３　伝染源は、ほ場に残った被害レンコンと保菌した種ハスが主である。

地下茎の病徴

ピシウム属菌の球のう

B 化学薬剤以外の防除方法

１　健全種ハスを選ぶ。
２　被害残さは、ほ場外に持ち出し処分を行う。
３　生育初期は、生育促進のため浅水とするが、夏期高温時は深水にし、水温を３０℃以上に上げないようにする。
４　フザリウム属菌による腐敗は冬期湛水し、ピシウム属菌による腐敗は冬期落水して乾燥させる。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

2　褐斑病【病原体：*Corynespora* 属菌（糸状菌）】

A 発生生態

1　葉に褐色の病斑を生じる。高温多湿が続くと、病斑上に黒いビロード状のカビを形成する。
2　高温多湿時に発生が多く、ハウス栽培では特に発生しやすい。
3　病原菌は、枯死した葉柄の被害部で越冬し、伝染源となる。

B 化学薬剤以外の防除方法

1　被害残さは、ほ場外に持ち出し処分を行う。
2　施肥、かん水などを適正に行う。
3　発病葉や葉柄は集めて処分し、ほ場や畦畔に残さないようにする。生育が衰えると発病しやすいので、根ぐされや肥料切れをおこさないように肥培管理を行う。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

３　アブラムシ類（クワイクビレアブラムシ、モモアカアブラムシ）

A　発生生態

４月中旬頃から用水路に自生している植物に寄生しハスに飛来する。主として萌芽、立葉（葉巻）に多数寄生し吸汁加害する。

B　化学薬剤以外の防除方法

ほ場周辺の雑草を除去する。

C　薬剤防除のポイント

４月下旬～５月上旬の時期に重点防除する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

４　ハスモンヨトウ

A 発生生態

1　果菜類、葉根菜類、イモ類、マメ類等多くの作物を加害する。
2　３月から成虫のふ化が見られ、秋期にかけて発生が多くなる。レンコンでは７月以降に被害が大きくなる。
3　幼虫はふ化後しばらくは集合して食害するため、被害初期は表皮のみを残したすかし状の葉が見られる。

B　化学薬剤以外の防除方法

1　ほ場周辺の雑草を除去する。
2　卵塊や若齢幼虫の群棲を確認し次第、除去する。

C　薬剤防除のポイント

1　病害虫防除所のホームページ（https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html）に掲載される情報（トラップデータ等）に留意して適期防除に努める。
2　齢期が進むと薬剤の効力が低下するので、表皮のみを残したすかし状の葉が見られたら防除を行う。
3　フェロモントラップを利用し、発生時期、量の把握に努める。

ハスモンヨトウの幼虫

©2010 熊本県くまモン

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

5　スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

A 発生生態

1　平坦地のレンコン田、水田、水路、河川、湖沼に生息する雑食性の貝である。
2　生存期間は２～３年と長く、殻高（殻の底面から先端までの長さ）５０mmに達する大型の貝である。
3　冬季は、水田や水路などの土中に潜り活動を停止する。４月上旬頃から活動を開始し、１０月頃から再び土中に潜る。レンコン田では、入水後、収穫まで活動する。
4　雌貝は、ふ化後、約５０日で産卵可能な殻高２０mmまで生長し、死亡するまでの２～３年間は４月から１０月の活動期間に連続して産卵を行う。
5　卵塊の色はショッキングピンクで、レンコン田では茎葉や波板、畦畔、水路の壁面などの水面上に産卵されるためよく目立ち、生息の有無が容易に確認できる。
6　水面下にあるレンコンの幼葉を歯舌で舐めるように食害する。

B 化学薬剤以外の防除方法

1　産卵５～１０日後の卵塊は水中への払い落とし、暗赤色や黒色のものは圧殺する。これらの作業を地域全体で定期的に行うことで次世代の密度を低下させる。
2　レンコン田、水田、および周辺水路に生息する貝を捕殺する。
3　水路からレンコン田への侵入を防ぐため、取水口および排水口は金網（４mm以下）で覆う。さらに、排水口は、常に排水路の水面より高くなる場所に配置する。

C　薬剤防除のポイント

1　農薬登録をしていない石灰窒素は防除に使用できない。登録の有無を確認し、農薬登録がある石灰窒素を使用する。
2　植え付け前に石灰窒素を施用する場合は、商品や製造会社で使用法が異なるため、必ず使用前に使用方法を確認する。
3　石灰窒素は窒素肥料としての肥効があるので、使用したレンコン田での施肥量には注意する。また、薬害の発生にも注意する。
4　メタアルデヒド剤（ＩＲＡＣコード：８）は、貝が摂食等することにより効果が現れるため、処理前に他のスクミリンゴガイ防除剤を使用しない。

農薬検索
農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。
熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！